古文 識別 まる見え1枚シート

同じ形で意味が違う語の見分け方を、入試に出る順にまとめました。「上に何が付くか（接続）」を見るのが最大のコツです。

★★★ 入試超頻出　★★ よく出る　★ 余裕があれば　💡 覚え方　▶ 例文

① なり ▶ ② なむ ▶ ③ ぬ・ね ▶ ④ に ▶ ⑤ る・れ ▶ ⑥ し ▶ ⑦ その他（らむ・て・が・を・ばや）

識別は「すぐ上の語が何形か」を確認するのが鉄則。とくに終止形か連体形か、未然形か連用形かを見分けるのがカギ。

読む順：左の列を上から順に ▶ 終わったら 右の列へ（見出しの番号が順番です）

1 なり — 断定か伝聞推定か

種類	接続（すぐ上）	意味・訳し方	頻出
断定 なり	体言・連体形	～だ・～である／～にある	★★★
伝聞推定 なり	終止形（ラ変は連体形）	～だそうだ（伝聞）・～のようだ（推定）	★★★
動詞 なる	—（ラ行四段「成る」）	～になる・～が生じる	★★
形容動詞語尾	「あはれ」「静か」等の語幹の下	形容動詞ナリ活用の活用語尾	★★

💡 **音・声・気配が根拠なら伝聞推定！** 「鐘の音聞こゆ」のように耳で得た情報につながる「なり」は伝聞推定。意味で迷ったら接続で決める＝終止形接続なら伝聞推定、体言・連体形接続なら断定。

▶ **例文**：男もすなる日記といふもの（す＝サ変終止形＋なる）→ 男もするという日記というものを（伝聞）

▶ **例文**：これは竜の首の玉なり（体言＋なり）→ これは竜の首の玉だ（断定）

2 なむ（なん）— 4つの「なむ」

種類	接続・形	意味・訳し方	頻出
係助詞 なむ	種々の語に付く（取り除いても文が成立）	強意（訳さず）。文末は連体形で結ぶ	★★★
完了な＋推量む	連用形＋な（完了ぬの未然形）＋む	きっと～だろう・～てしまうだろう	★★★
ナ変＋む	「死ぬ・往（去）ぬ」の未然形語尾な＋む	死ぬだろう・行くだろう（推量・意志）	★★
終助詞 なむ	未然形＋なむ	他への願望「～してほしい」	★★★

💡 **すぐ上の活用形で一発判定！** ①未然形＋なむ＝願望（～てほしい）／②連用形＋な＋む＝強意完了＋推量（きっと～だろう）／③種々の語に付き取り除いても文が成立＝係助詞（強意）。係助詞なむは文末が連体形で結ばれる（係り結び）。

▶ **例文**：花咲かなむ（咲か＝未然形）→ 花が咲いてほしい（願望）

▶ **例文**：今は立ちなむ（立ち＝連用形＋な＋む）→ もうきっと立ち去るだろう（強意完了＋推量）

▶ **例文**：いとうつくしうなむゐたる（係助詞）→ たいそうかわいらしく座っている（強意・結びは連体形「たる」）

3 ぬ・ね — 完了か打消か

「ぬ」の見分け

- 完了ぬ・終止形 連用形＋ぬ＝～た・～てしまった
- 打消ず・連体形 未然形＋ぬ＝～ない（下に体言が続く）

「ね」の見分け

- 完了ぬ・命令形 連用形＋ね＝～てしまえ
- 打消ず・已然形 未然形＋ね＝～ない（ば・ども等が続く）

💡 **上が連用形なら完了、未然形なら打消！** 動詞「咲く」で確認すると、咲きぬ（連用→完了）／咲かぬ（未然→打消）。同じ動詞を当てはめて上の音が「い段(連用)」か「あ段(未然)」かを見る。

▶ **例文**：日も暮れぬ（暮れ＝連用形）→ 日も暮れてしまった（完了・終止）

▶ **例文**：知らぬ人（知ら＝未然形）→ 知らない人（打消・連体）

4 に — 最難関！6つの「に」

種類	接続・決め手	意味・訳し方	頻出
格助詞 に	体言（連体形＝準体言）に付く	～に（場所・時・対象・帰着点）	★★★
接続助詞 に	連体形＋に（文と文をつなぐ）	～ところ・～ので・～のに	★★★
断定なり 連用	体言・連体形＋に（下に「あり・侍り」等）	～である・～であって	★★★
完了ぬ 連用	連用形＋に（下に「き・けり・けむ・たり」）	～てしまった・～た（にき／にけり）	★★★
形容動詞 連用語尾	「静かに」「あはれに」等の語尾	形容動詞ナリ活用の連用形活用語尾	★★
副詞 の一部	「さらに」「げに」「つひに」等	副詞の一部（切り離せない）	★

💡 **「にき・にけり・にけむ・にたり」は完了「ぬ」の連用形！** 「に＋き／けり…」のセットを見たら即完了。「に＋あり（→なり・なる）」なら断定の連用。下に何が続くかで決めるのが最速。

▶ **例文**：京にはべり（体言＋に）→ 京にいます（格助詞）

▶ **例文**：思ひけるに、…（連体形＋に）→ 思っていたところ、…（接続助詞）

▶ **例文**：鬼にやあらむ（鬼＝体言＋に＋や＋あらむ）→ 「鬼であろうか」。この「に」は断定「なり」の連用形。

5 る・れ — 助動詞か活用語尾か

種類	接続・決め手	意味・訳し方	頻出
る・らる	未然形＋る／れ（a段＋る）	自発「自然と～れる」・受身「～られる」・可能「～できる」・尊敬「～なさる」	★★★
完了存続り	四段已然形・サ変未然形＋る／れ	～た・～ている（完了・存続）	★★★
動詞 活用語尾	ラ変・ラ行四段・下二段などの一部	その動詞の活用語尾（識別不要）	★★

💡 **上が e段なら完了「り」、a段なら助動詞「る」！** 「咲く」で確認＝咲ける（已然e段→完了存続）／咲かる（未然a段→自発受身可能尊敬）。サ変は「せ＋り」の形（し給へり＝四段已然の例）。自発・尊敬は「心情語＋る」「貴人＋る」が目印。

▶ **例文**：故郷思ひ出でらる（思ひ出で＝心情）→ 自然と故郷が思い出される（自発）

▶ **例文**：花咲けり（咲け＝四段已然e段）→ 花が咲いている（存続）

6 し — 過去「き」か他か

種類	接続・決め手	意味・訳し方	頻出
過去き 連体形	連用形＋し（下に体言）	～た（過去・連体）	★★★
副助詞 し	体言・助詞などに付く（取り除ける）	強意（訳さない）「しも」の形も多い	★★
形容詞 語尾	「うつくし」「をかし」等の終止形	形容詞ク・シク活用の活用語尾	★★
サ変す 連用形	「し給ふ」「したり」の形	「する」の連用形	★

💡 **取り除いても文が通れば副助詞、通らなければ過去！** 「今しも」のように消しても意味が変わらない＝副助詞。連用形＋し＋体言は過去「き」の連体形。形容詞は「～し。」で文が終わる。

▶ **例文**：見し人（見＝連用形＋し＋人）→ （以前に）見た人（過去・連体）

▶ **例文**：今しも来む（取り除ける）→ ちょうど今来るだろう（副助詞・強意）

7 余裕があれば押さえる識別

語	見分けの決め手	意味・訳し方	頻出
▼ らむ（らん）			
現在推量らむ	終止形（ラ変は連体形）＋らむ	今頃～ているだろう／～のだろう（原因推量）	★★
完了り＋推量む	四段已然形(e段)＋ら（完了りの未然形）＋む	～ているだろう（存続＋推量）	★
▼ て			
接続助詞て	連用形＋て	～て・～ので（単純接続）	★★
完了つ未然・連用	連用形＋て（下にむ・き・けり等）	てむ＝きっと～だろう、てき・てけり＝～てしまった	★
▼ が・を			
格助詞が・を	体言・連体形に付く	が＝主格／連体（～の）、を＝対象（～を）	★★
接続助詞が・を	連体形＋が／を（文をつなぐ）	が＝～だが、を＝～ので・～のに	★★
▼ ばや			
終助詞ばや	未然形＋ばや	～したい（自己の願望）	★★
接続助詞ば＋係助詞や	已然形＋ば＋や	～ので…か／～すると…か（疑問）	★

💡 **「ばや」は未然形＋ばやで願望！** 已然形＋ば＋や（疑問）と区別。「が・を」は連体形に付いて文をつなぐなら接続助詞、体言に付けば格助詞。

▶ **例文**：いかで見ばや（見＝未然形）→ なんとかして見たい（願望の終助詞）

▶ **例文**：思ふを、え言はず（思ふ＝連体形＋を）→ 思うのに、言えない（接続助詞「を」＝逆接）